

# 平成22年第11回県教育委員会会議

## 教育長報告

### 1 報告事項

第34回全国高等学校総合文化祭宮崎大会について

### 2 事項の説明

(1) 期 間：平成22年8月1日(日)～8月5日(木)

(2) 場 所：宮崎市、日南市、都城市、小林市、西都市、高鍋町、延岡市、日向市、その他

(3) 参加部門：24部門中14部門参加

合唱、吹奏楽、器楽・管弦楽、郷土芸能、美術・工芸、書道、写真、演劇、放送  
囲碁、将棋、弁論、文芸、ボランティア

①参加者数：274名(生徒219名、引率55名)

②参加学校数：36校参加

(4) 主な結果

	成績	部門名	小部門名	学校名	生徒名 (学年又は人数)	作品名・演題等	全国 参加数
発表部門	優秀賞	放送	アナウンス	辺土名高等学校	野里朱美礼(3年)	根謝名城遺跡	142名
	優秀賞	弁論		那覇国際高等学校	山里こころ(3年)	家族に対する想い	63名
	奨励賞	写真		那覇工業高等学校	高野大(3年)	ぎゅ〜	308点
	特別賞	書道		糸満高等学校	山城洸大(3年)	楊峴臨古四種巻	306点
競技部門	準優勝	将棋	女子団体	昭和薬科大学附属高等学校	外間まどか(2年) 新城咲希(2年) 宮國絵理奈(1年)		32校
	3位		男子個人	沖縄尚学高等学校	小野浩史(1年)		49名

※ 楊峴臨古四種巻は清朝末期の書家、楊峴が先人達をたたえる四つの詩をまとめた書物の題名。山城洸大さんはその中の三つを書き写した。

※ 参加教は人数(個人単位で競う部門)、点数(出品作品で競う部門)、校数(学校単位で競う部門)がある。

### (5) 講評

今年度は14参加部門の内、ボランティア部門を除く13部門で競技が行われ、放送、弁論、写真、書道、将棋部門の5部門で6点の入賞があった。今回は219名が県代表として参加したが、参加学校数(代表生徒の所属校)が昨年(26校)より10校増え、県立高等学校(特別支援学校を含む)総数の約半数の学校が参加した。放送部門のアナウンスで、辺土名高等学校の野里朱美礼さんが「根謝名城遺跡」と題する作品を発表し、優秀賞に輝いた。放送部門での優秀賞獲得は5年連続となる。将棋部門では女子団体で昭和薬科大学附属高等学校が準優勝、男子個人で小野浩史さんが3位の成績を収めた。全国大会での団体入賞は初めてである。弁論部門では那覇国際高等学校の山里こころさんが「家族に対する想い」と題する発表で、優秀賞を獲得した。また、書道部門で糸満高等学校の山城洸大さんの作品が「伸びやかな姿勢を活かし、隸書のリズムが発揮された作品」と評され、特別賞を受賞した。

その他、写真部門で那覇工業高等学校の高野大さんが奨励賞を受賞した。